

「地域との関わりを通して、ともに学び合い、高め合う児童の育成」を目指しています。



あいはら

2025. 9. 30
町田市立相原小学校
校長 百田 明弘
学校便り NO. 6



☆「夢・地域とともに」☆

校長 百田 明弘

9月に入っても暑い日が続きましたが、お彼岸を過ぎて、ようやく秋らしくなってきました。

今年度、6年生は総合的な学習の時間の中でキャリア教育として、将来の夢や職業について考える時間をとっています。その取り組みの一つとして、地域で活躍する方や本校卒業生のお話を聞く機会を設けています。9月は私自身が学生時代の仲間からの紹介で、相原小学校の卒業生で頑張っている若者がいるという話を聞き、来ていただきました。（今後、保護者の協力のもと様々な職業の方のお話も伺う予定）



現在、海外の大学で医師を目指して勉強中という相原小学校卒業生です。彼女が夢をもったきっかけは「ユニセフ募金」活動と語っていました。世界には困っている子がいることを知ったり、自分にできることはないのかと考えたりと現在につながっているそうです。そのほかにも役者や保育士などの夢もあったそうですが、小学校生活での放送委員会や演劇クラブでの体験がつながっているという話でした。

こういう話は、この仕事をしていて嬉しい瞬間でもあります。「教育」はすぐに結果がでるわけではありません。毎日の教育活動において、日々の評価、学期末や学年末の評価はもちろん、5年後10年後を見据えたものであるべきであると改めて感じました。これからも「どんな人を育てるか」という視点を忘れないようにと思います。

さて、10月4日（土）は道徳授業地区公開講座を開催します。全クラス道徳の授業を公開します。併せて、今年度はパネルディスカッションとして、地元プロスポーツに関わるFC町田ゼルビアから地域振興部の方、またこの地域で子育てサークルを主宰され健康などに関わる活動されている方をお招きします。6年生にも参加してもらい、人を育てるために「大人が」「地域が」どんな考えをもっているのか、仕事への「こだわり」や「やりがい」などを感じてもらえればと考えています。もちろん、保護者や地域の方々にも一緒に参加いただき、声を聞かせてほしいと思います。

10/4、11/15 ユニセフ募金活動を行う予定です。保護者・地域の方々の募金へのご協力お待ちしております。

2学期は多くの学校行事が予定されています。11月15日（土）には学習発表会を予定しています。相原小学校は、多くの地域の方々に、授業のサポート、ゲストティーチャーとして協力いただいています。また放課後の学童クラブ、放課後子供教室「まちとも」、週末や夜間の社会教育など多くの方々にも支えられています。

それぞれの地域の力を借りながらも、児童がより成長していけるよう、ちょうどよい距離で見守っていただけるよう今後もよろしくお願いいたします。

相原歳時記（詩人・歌人・八木重吉 詩集・「秋の瞳」） 地域、季節、人物の話題を伝えるミニコーナー

毎年お彼岸に合わせて花を咲かせる「彼岸花」の不思議に感心しています。さて、改めてですが郷土の詩人を紹介します。八木重吉は1898年2月9日、堺村相原大戸（現町田市相原町）の農家に生まれました。1917年神奈川師範学校から、東京高等師範学校英語科（現筑波大学）に進み、在学中内村鑑三の著作に感化されキリスト教の洗礼を受けました。卒業後、兵庫県御影師範（現神戸大学）の英語教師となりました。病弱ながら詩作、第一詩集『秋の瞳』を刊行、1925年、親戚の作家であった加藤武雄の世話により、第一詩集の『秋の瞳』が新潮社より刊行されています。1926年、結核と診断され、約1年間絶対安静の闘病生活を続けます。

病の床で第二詩集『貧しき信徒』を編纂。1927年10月26日、『貧しき信徒』の刊行を見ぬまま29歳で死去、郷里堺村の八木家墓地に葬られました。約2000もの詩を残し、誌はあまり長いものでなく短いものが多いのですが、読む人を優しい心で包んでくれます。【「相原観光エリアマップ」パンフレットより】

今も数多くのファンをもつ詩を残した八木重吉を振り返る催し「八木重吉没後98年 茶の花忌」が10月26日（日）八木重吉記念館で開かれます。

八木重吉をしのぶ企画のほか、文芸講話や音楽ライブ、朗読などが予定され、時間は午後1時から3時30分ごろまで。予約不要・参加無料。八木重吉の詩を愛好する会が主催。【タウンニュース9・18号より】
問い合わせは同会広報担当ギャラリービブリア【電話】042・511・4368。

「咲く心」（詩集 秋の瞳より）
うれしきは
こころ 咲きいづる日なり
秋、山におかひて うれひあれば
わがこころ 花と咲くなり